みごと"準優勝"

＝第6回山武地区身障者スポーツ大会＝

九月二十二日、東金青年の家グラウンドを会場に、第六回山武地区身体障害者スポーツ大会が開かれ、横芝町チームがみごと準優勝しました。

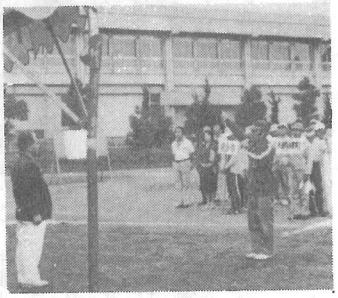
この大会は、山武地区の身体障害者が、スポーツを通じて体力の維持増強や、心理的更正の効果を図るとともに、一般社会の身障者に対する正しい認識の向上と、深い理解を高めるために毎年おこなわれるものです。

横芝町からは、伊藤会長をはじめ十余名の選手が参加し、各種目に健闘、着実に点数をかせぎました。

全競技終了の時点で、総合点が九十九里町と同点となり、優勝杯をかけて団体競技（玉入れ）で決勝をおこないましたが僅かに及ばず、優勝は逃がしましたが、他市町村チームからひと際高い拍手を受けました。

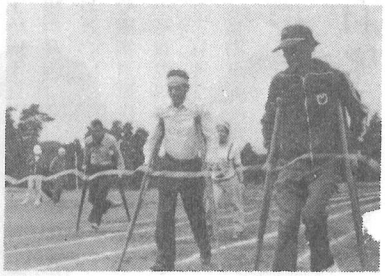
選手、応援団のみなさん、ご苦労さまでした。

▶横芝町チームの方々。



▶元気に選手宣誓をする佐久間新一さん（木戸台）

▼同点決勝での玉入れ競技。応援にも熱がはいります



▼みごと1位でテープを切る柳橋安雄さん（長倉）

今度農業委員の皆さんの御推薦によりまして、会長の重責を担う事になりました。先輩諸賢の御指導によりまして、この重責を全うすべく、全力投球致す所存でございます。

農業は曲り角だと言われて、より久しいものがあります。昭和三十年後半からの経済の高度成長時代には、兼業であろうと出稼であろうと、所得が得られれば田畑は荒らしてもそれでよという風潮が目立ち、しっかりと腰をすえて農業一本でやる人は減り、農業は衰退の一途を辿って参りました。単に、当面の所得を高めるということになれば、一年に一作か二作の農業よりも、生産性の大きい工業に、金や土地や人をつぎ込んだほうがいいにきまっています。

農業委員会会長
清宮宏視氏

町農業の再建に全力投球

然し、国が健全に、平和に発展して行く為には、食糧は出来るだけ国内で生産し、農、工がバランスのとれた成長をして行くことが必要だと思います。農業は衰退しても、食糧は輸入し工業が発展すれば良いという姿勢をとってきたところに、高度成長路線の根本的な誤りがあったと思います。

例の石油パニック以来、高度成長時代は終りを告げ、低成長時代へと移行して参りました。そして農業見直し、農業復権という機運が起こって参りましたことは、当然のことだと思います。著しく衰退してしまった農業に活を入れ、再建することが大きな政策課題となった事は事実でありましょう。横芝町農業委員会としても、たくさんの重大な問題をかかえています。成田空港の開港による農業への影響、都市化の進む中での農地の確保、転用の問題、買占め土地の農地への奪還、意欲的な農家に農地の経営権を、後継者の魅力を感ずる農業への脱皮、農業者年金の問題等委員会として真剣に取組むべきことがたくさんあります。

私達は姿勢を正して諸問題を厳正公平に処理し、農業を発展させ、そして地域の発展に寄与致すつもりでございますので、町民の皆様方の御指導と御協力を切にお願い申し上げます。